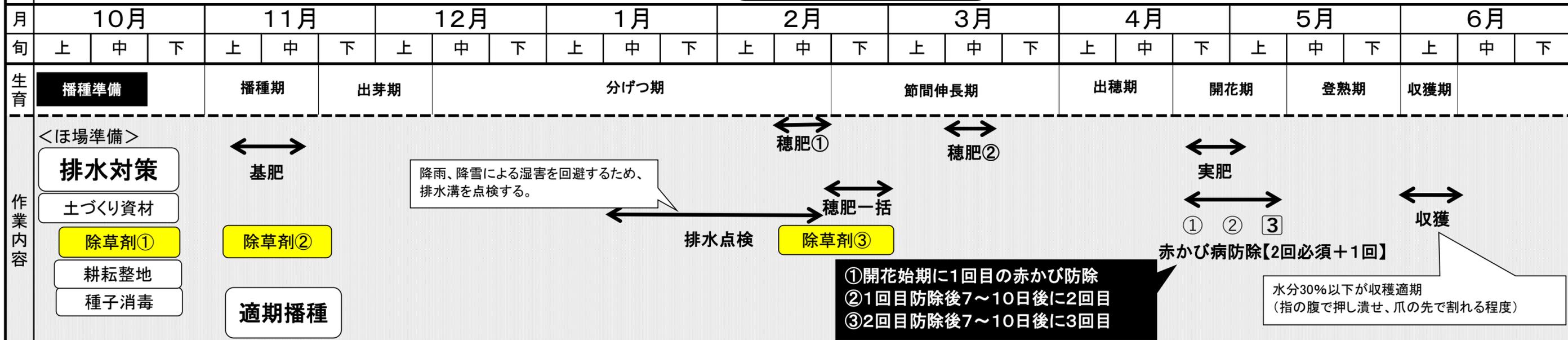


# 令和8年産 小麦『びわほなみ』栽培こよみ

【目標】収量600kg/10a・タンパク含量9.7%以上・容積重840g/l・フォーリングナンバー300以上・灰分1.6%以下

ポイント	①排水対策の徹底(弾丸暗渠・明渠の施工) ②適期播種(早い播種は生育が早まり黒節病・縞萎縮病・凍霜害・倒伏のリスクがある。) ③赤かび病に弱い品種のため2回防除が必須。 ※県防除所からの注意報等が発令された場合は3回目の防除必須。	★播種適期(許容範囲) 大津南部地区 11月10日~11月15日 (11月5日~11月20日) 高島地区 11月5日~11月10日 (11月1日~11月15日)	びわほなみの特性			播種日	出穂日	成熟期	赤かび病耐病性
			稈長が短いため倒伏には強く、収量は多い。穂発芽性は「農林61号」と同程度であるが、赤かび病には弱い。	11/10	4/11	5/30	弱		

※後期重点施肥の場合は成熟期が2~3日遅れる。



### 排水対策

- 明渠と暗渠の組み合わせによる排水対策を徹底。
- 額縁明渠の深さは20~30cmに設定する。
- 弾丸暗渠の深さは20~30cmで施工し、明渠と繋げる。
- 水尻に繋がる明渠の溝さらえは、定期的に行う。

#### 排水溝の設置例

【注意】★のところは必ず連結する。

溝幅は水はけを考慮し3~7.5m

#### うね肩の仕上げ

【良いうね】 排水良好  
【悪いうね】 水が溜まり過湿となる

#### 土づくり

麦の健全な生育のためには土壌pHの値を6.5以上にすることが必要のため、土づくり資材を施用する。

資材名	施肥量(10a)	成分
粒状炭酸苦土石灰	100kg(5袋)	アルカリ55%、Mg15%

### 播種

- 品種特性と品質向上の為、種子更新と種子消毒の徹底と適期・適量播種をする。
- 土が乾いた状態で行う。
- 播種が10日遅れた時は播種量を1kg/10a増やす。
- 条播(ドリル播)の条間は25cm以下とする。

播種方法	播種量(10a)	播種深(cm)
条播(ドリル播)	8kg	3~4cm
散播(全面全層播)	10~12kg	播種後に5cm混和

※条播時、播種遅れの場合は播種量を最大10kgを目安に増量

#### 施肥体系 (10a当り)

施肥体系	基肥	穂肥①	穂肥②	実肥
	播種時	化成肥料488 【N14-P-8-K8】 0~15kg	硫酸【N21-P0-K0】 35~45kg	硫酸【N21-P0-K0】 35~45kg
後期重点	化成肥料488 【N14-P-8-K8】 0~15kg	穂肥一括(2月下旬)		硫酸【N21-P0-K0】 20kg または 輸入尿素【N46-P0-K0】 10kg
省力施肥	セラコートRブレンド2530 【N41.5-P0-K0】 50kg	輸入尿素(大粒) 【N46-P0-K0】 30~40kg		

※地力の高い圃場では倒伏のリスクが高まるため、基肥や穂肥を目安の範囲内で施肥量を減量しましょう。

#### 後期重点とは

生育後半に重点的に施肥を行うことにより、有効茎数歩合を高めるとともに、登熟後半まで栄養を保持し収量向上を図る施肥設計です。

### 防除薬剤一覧

区分	農薬名	適用病害虫・雑草名	薬量・希釈使用量	使用時期
種子消毒	ベンレートTコート	斑葉病,なまぐさ黒穂病,裸黒穂病,条斑病	乾燥種子重量の0.5%	播種前(種子粉衣)
	キヒゲンR-2フロアブル	なまぐさ黒穂病,紅色雪腐病,サトビムシ	乾燥種子重量1kg当たり原液 20ml	播種前(塗沫処理)
除草剤①	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草,多年生イネ科雑草	薬量200~500ml/10a 希釈水量(通常散布)50~100L/10a	耕起前または播種前まで
除草剤②	クリアターン細粒剤F	一年生雑草	4~5kg/10a	播種直後(雑草発生前)
	クリアターン乳剤		薬量500~700ml/10a 希釈水量70~100L/10a	播種直後(雑草発生前)
	リベレーターG		4~5kg/10a	播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)
除草剤③	リベレーターフロアブル	一年生および多年生広葉雑草	薬量60~80ml 希釈水量100L/10a	播種後~麦3葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)
	MCPソーダ塩		薬量200~300g/10a 希釈水量70~100L/10a	幼穂形成期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)
どちらか選択	ハーモニー75DF	一年生広葉雑草,スズメノテッポウ	薬量5~10g/10a 希釈水量50~100L/10a	麦3葉期~節間伸長前

### <赤かび病防除(必須2回+1回)の徹底を!!>

区分	農薬名	適用病害虫・雑草名	薬量・希釈使用量	使用時期	使用回数
赤かび病防除	ワークアップ粉剤DL	赤かび病	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
	トップジンM粉剤DL		3~4kg/10a	収穫14日前まで	出穂以降2回以内

※特に1回目の赤かび防除は必ず適期(開花始期)に行う。

#### 農薬使用上の注意

- この資料に記載された農薬は、2025年8月28日時点での登録内容です。
- 農薬の使用にあたっては必ず、手持ちの農薬の容器ラベルを確認してください。
- 農薬の使用に関して不明な場合は、必ず使用する前に農薬メーカーやJA等の指導機関へ問い合わせを確認してください。
- 農業取締法により、無登録農薬や使用禁止農薬を使用した場合は違反になります。また、農薬の使用方法を誤って使用した場合も違反となります。